

池田会長による防衛省訪問について

2022年12月1日、池田会長、飯野海運 當舎社長、川崎汽船 綾専務執行役員、日本郵船 樋口執行役員、商船三井 遠藤執行役員、森重理事長ほか2名が防衛省を訪れ、防衛省統合幕僚副長および海上幕僚長に対し、海賊対処行動に対する感謝の意を伝えました。

はじめに、池田会長よりわが国外航海運業界を代表し、自衛隊隊員の皆様が取り組む海賊対処行動に対する謝意を、鈴木統合幕僚副長にお伝えしました。

続いて、アデン湾の海賊対処行動に従事された桑原和洋1等陸佐（17次支援隊）、松川広司2等海佐（48次航空隊）、吉留章友2等海佐（49次航空隊）に感謝状と盾を贈呈いたしました。なお、今回参加いただけなかった部隊指揮官にも感謝状・盾をお送りすべく、統合幕僚副長にお預けしました。

懇談の場では、統合幕僚副長から来訪への謝意に続き、「多国籍の展開する軍艦が海賊に対する抑止力となっている。しかしながら根本的な解決には至っておらず、国際社会全体として引き続き取り組んで行く必要がある。」と、関係者全体での協力が呼びかけられました。

酒井海上幕僚長からは、海賊対処行動が開始した当初はノウハウがなく手続き面でも苦労したが、現在では滞りなく対処している。また、他国軍と共同訓練を行うことから、隊員の励みにもなっている点も紹介されました。

現場で指揮を執った桑原1等陸佐、松川2等海佐、吉留2等海佐からは、現地での生活の様子とともに、最近では海賊事件の発生が少ないながらも、隊員には何事もないことを確認することが任務であると指導し、隊員の士気向上に努めた旨紹介がされました。また、任務中、無線通信で航行中の船舶から日本語で返答があった際は、嬉しくなると共に自身の任務の重要性について改めて認識したことなど、現場を経験された方ならではの貴重な体験談が紹介されました。

最後に、池田会長より、2023年2月にジブチを訪問することを計画しており、現地にて直接多くの隊員の方に謝意を伝え、交流を深めたいと思っている旨、お伝えしました。

日本船主協会では、2019年まではジブチ共和国に代表団を送り、派遣中の護衛艦、航空隊並びに支援隊拠点を訪問のうえ、感謝のレセプションを、また、東京においても「海賊対処行動感謝の集い」を開催し感謝の意を伝えておりました。2020年からは、新型コロナウイルスの影響によりこれら活動が実施できず、代わりに防衛省への訪問を行っております。



前列左から 酒井海上幕僚長、鈴木統合幕僚副長、松川 2 等海佐、桑原 1 等陸佐、吉留 2 等海佐、池田会長、飯野海運當舎社長

後列左から 藤橋会長秘書、五十嵐首席参事官付企画官、川崎汽船綾専務、森重理事長、日本郵船樋口執行役員、商船三井遠藤執行役員、平尾海務部長、押川国際協力室長、西端運用支援調整官



感謝状を桑原 1 等陸佐に手交する池田会長



盾を松川 2 等海佐に手交する池田会長



感謝状を吉留 2 等海佐に手交する池田会長



懇談の様子